

脱原発・放射能汚染を考える

伊方原発の運転差止め決定の取消しに抗議する 国が具体的対策をせず、国民の大多数が問題にしなければ噴火は無視できるのか

広島高裁は昨年12月に、住民側の即時抗告を認め、伊方原発の運転差止めを命じた。判決は伊方原発から約130^{km}離れた阿蘇山が過去に起きたと同規模の噴火を想定し、原発の立地は不適切とした。四電が広島高裁に保全異議を提出し、広島高裁はその異議を認めて決定を取り消した。阿蘇山の破局的噴火は「頻度が著しく小さく国も国民の大多数も問題としていない」とした。

大分地裁も「運転差止め仮処分」を却下

大分地裁は、広島高裁の決定取消しを待っていたかのように、28日に「運転差止めの仮処分申し立て」を却下した。大分地裁は「原発の運用期間中に巨大噴火が生じることが差し迫ったものといえない」との四電の主張を認めた。中央構造線断層に近い伊方原発の基準地振動の「過小評価」も否定し、重大事故が起こる可能性は「社会通念上、無視できる」とした。

伊方3号機については、山口地裁、高松高裁でも審議が続く。

四電は10月27日の運転再開を発表し、1日から核燃料を装着。



伊方3号機

福島第一汚染水 処理後も基準値超えが殆んど

「トリチウム汚染水」の海洋投棄を提起している汚染水の8割以上がヨウ素やストロンチウムも基準を大幅に上回っていることが判明した。まともに処理できない多核種除去設備で浄化する汚染水対策の破綻が明らかとなった。

沖縄県知事選 玉城デニーさん勝利！ 安倍政権は辺野古新基地建設を止めろ

沖縄県民は安倍政権の異常な攻撃と、利権による分断をはね除けて再び勝利した。辺野古新基地建設反対の民意は再び明確なカタチで確認された。佐喜真氏は安倍政権の沖縄民意無視の尖兵となりながら、「対立から対話」と称して政権への屈服を主張したがそれは認められなかった。

安倍政権は、選挙の翌日から埋め立て再開を狙っていたが、埋め立て承認の撤回で再開は出来ない。

オール沖縄の闘いを、安倍政権の打倒に向けた全国の闘いで包み込めるようにがんばろう！



勝利した玉城さん

報告 オリンピックを前に「原発事故」の「正常化」を強行する安倍政権 放射線被曝と健康破壊を住民に強要する「避難解除」

2013年9月7日、安倍首相は、IOC 総会で、東京は原発事故の影響があるのではないかと危惧に対して、「フクシマについて、私から保証をいたします。状況は制御されています。いかなる悪影響も及ぼすことはありません」と発言した。そして、翌年4月から避難地域が解除され始めた。国が設定した「復興・創生期間」は2021年3月で終わり、復興庁は廃止される。

住民の反対を押切って進められる「避難解除」



福島第一原発の事故で放射線の影響で、避難地域が指定されたが、2011年に縮小され、帰還困難区域(年50^{mSv}超)、居住制限区域(年20~50^{mSv})、避難指示解除準備区域(年20^{mSv}以下)となった。そしてそれ以降避難指示解除準備区域と一部の居住制限区域の避難指示が解除されている。

避難指示解除の説明会では住民から被曝への懸念や、時期尚早との意見がでて、「村の復興のため」と決定が強行されている。そして避難指示が解除されて1年以内に帰還しない人は「自主避難者」として補償が打ち切られる。そんな強制的な帰還強制でも帰還するのは自治体職員と老人ばかりで帰還率は20%以下が多い。

被曝を甘受することでしあわせになれるのか？

復興庁は「放射線のホント」という冊子を住民に配布し、「人々を苦しめているのは放射線無く、知識不測からくる思い込みや誤解です」として、100~200^{mSv}CVでも野菜不足と塩分の取りすぎと同じとデマを振りまいている。

このデマ宣伝と同じ内容を、原水協の主催する原水禁

世界大会の要職にある野口邦和氏や安斉育郎氏が「しあわせになるための『福島差別』」という本を刊行した。その特徴は国や電力会社を批判するのではなく、反原発運動や、放射線の危険を表明する科学者への攻撃である。これは極めて危険で残念な動きである。



ビキニ原爆被災船員が再審査請求 (9/21 朝日)

1954年に米国が太平洋・ビキニ環礁で行った水爆実験で被爆し、健康被害を受けた高知県の元漁船員ら11人が、労災認定に当たる船員保険の適用を求めて、厚労省の社会保険審査会に再審査を請求した。同事件では静岡の第5福竜丸の被爆だけは認定されたが、他の船の被爆は無視され、一切の補償も健康保障もされていない。昨年12月には全国健康保険協会が不適用を決定。7月には関越厚生局審査官も審査請求を棄却。

福島汚染土を栃木で埋立工事に試験使用 (9/25 朝日)

環境省は東電福島原発事故に伴う福島県以外の7県の除染土の処分方法を決めるために、栃木県那須町で埋め立ての実証試験を始めた。袋つめの除染土を袋から出し、地中に埋め、表面を30cm別の土で覆う。そして現場周辺の放射線量や、地中の水の放射性物質濃度を測り、安全性を検証するという。

東海第2原発 再稼働適合決定／規制委 (9/26 朝日)

規制委員会は26日、日本原電の東海第2原発が、新規性基準に適合すると認める審査書を正式決定した。

再稼働するには、今年11月の運転開始40年までに運転延長など2つの認可が必要である。東海第2原発周辺30^{キロメートル}圏内には約96万人が住む。また安全対策費1740億円の安全対策費の確保も問題となっている。

マレーシアが「反原発」宣言 (9/26 日刊ゲンダイ)

5月にマレーシアのトップに帰り咲いたマハティール首相が、就任すると同時に6%の消費税を撤廃し、東海岸高速鉄道計画などの無駄な公共行事を中止した。そして9月18日の「電力供給産業会議」で、「マレーシアは電力確保に、原子力は選択肢はない」と反原発を宣言。

幕引きさせてたまるか！森友問題 アベの大罪を暴く

9月16日の昼から、森友学園問題を考える会の主催で豊中文化芸術センターの大ホールで800人の参加で集会が開かれた。安倍政権は何の責任もとらないまま幕引きをはかろうとしている。こんなことが許されたら、民主主義の基盤が崩されてしまう。

集会では東京新聞の望月衣塑子さんとTBSの金平茂紀さんのトークセッションが行われ、立憲民主党、社民党、共産党から報告と決意が表明された。国有地売却に関連する訴訟について大川弁護士から、今後の闘いの方向について木村真さんから報告が行われた。参加者は、森友問題をしつこく追及し続け、安倍首相を引きずり下ろすまで、幕引きさせない決意を固めた。

大阪地裁 近畿財務局職員の証人採用 (9/26 朝日)

森友学園への国有地売却額を不開示したことの損害賠償裁判で、大阪地裁は森友学園側と国有地売却の交渉をした財務省近畿財務局職員の池田靖管財総括第3課長の証人尋問が認められた。木村真豊中市議は、「学園への国有地売却の際に不当な価格設定をしたことを明らかにするとしている。

森友文書改竄自殺した職員の父が取材に (9/28 朝日)

財務省近畿財務局に勤務し、3月に「森友学園との土地取引の決済文書」を書き換えたことを苦にやんで自殺した職員の父親が取材に応じた。「遺書には上司に指示されて文書を書き換えたことを苦しめていた、という趣旨の記述があった。名前は書かれていなかったが、本省の役職名が書かれていた。」「大阪地検特捜部が、全てを不起訴にしたときは拍子抜けした」と語った。

資料 危険性も核のゴミ問題も解決できない「次世代原子炉」開発は止めろ！

原発の延命に無駄金を注ぐ「次世代原子炉」研究

安倍政権が7月に閣議決定した「新エネルギー基本計画」は原発の新增設は明記できなかったが、「安全性・経済性・機動性に優れた炉の追求」を目指す技術開発を進めるとした。経産省は、次世代技術の開発費を援助し、2030年代の実用化を目指す。

次世代炉は、欧米で注目を集めている「小型モジュール炉」である。出力を10～30万^{キロワット}にすることで小型化し、事故時にも冷却しやすいとする。小型炉の中では「高温ガス炉」が注目を集めている。それは原発の1次冷却水にヘリウムを使用し、900^度の超高温のガスを化学工場や地域暖房に使用する。

核燃料に核分裂を起させその熱で1次冷却水代わりのヘリウムを高温高圧にしてガスタービンで発電する。システムの構造には何の変化もない。小型である以外安全性は何もない。小型炉は原子力空母や原子力潜水艦に利用されてきた技術であり、住民の安全は考慮外である。



再稼働申請中の「常陽」

失敗した「もんじゅ」の反省を生かさない計画

高速増殖炉「もんじゅ」の廃炉作業は始まったが、原子力機構は実験炉の「常陽」の再稼働を規制委に申請した。

政府は年内にも、高速炉開発のロードマップを作成し、開発工程を具体化させようとしている。日本は「もんじゅ」で高速増殖炉の安全性、経済性がないことを実証し結局、失敗したのに、仏のナトリウム冷却型実証炉「アストリッド」の開発に投資しようとしている。そして40年前に稼働開始した実験炉「常陽」を再稼働しようとしている。組織の存続のため以外には、意味の無い延命策である

「次世代原子炉」は原発の危険性、廃棄物は解決しない

「次世代原子炉」研究の前に解決すべき「現在の原子炉」の使用済核燃料と放射性廃棄物の処理、住民の健康を損なわない廃炉方法など、多くの問題が解決されずに残されている。まず必要なことは、現在の原発を停止し、これ以上の使用済核燃料と放射性廃棄物を作らないことである。そして作ってしまったそれらの負の遺産を、次の世代に引き継がないために、どのようにしていくかを研究することである。

「阪大ニグロ」のうたごえがユーチューブで聴ける

1960年代には、公民権運動やベトナム反戦の闘いの中でうたい、関西でのフォークソング運動の中心として活躍された「阪大ニグロ」、そして1980年代からは反原発の集会や闘いの中で「ノー・ニュークス・シンガー」(NNS)として活躍された中山一郎さんが、その当時のうたごえをユーチューブで紹介されている。闘いの中で生まれ、闘いを鼓舞してきたうたをぜひお聞きください。(文責:編集部)

[1] 「腰まで泥まみれ」

<https://www.youtube.com/watch?v=L1uUjsRsGxE>

1965年に所謂「関西フォーク」の先陣！を切った阪大ニグロが1981年に歌った『腰まで泥まみれ』(作:ピート・シーガー／日本語詞:中川五郎)。

当時もそうでしたが、この歌の内容が今でもこんなに切実だとは…。まさに歴史は繰り返す。が…。

[2] 「俺は のむ」

<https://youtu.be/zER4LBZ0I5U>

(1984年「11/16 大飯公開ヒアリング阻止

代表派遣集会」にて)

「日高(和歌山県)反原発闘争」の真っ只中の1984年に、詩人の小島 力さん(当時は福島県の双葉町／現在は武蔵野市に避難)の『原発下請労働者』を原詩として、NNSが曲〈俺は のむ〉として歌いました。

[3] 「オモニ あいたい」(原題:故郷とひきはなされて)

https://youtu.be/_8kvISdyMVc

(1982年12月12日

「わだつみ会不戦の集い(戦争と平和)」にて)

この曲は、戦時中に強制連行され、九州・筑豊の豊州炭鉱で働かされた朝鮮人炭鉱夫が、現場監督に気取られないように密かに歌い継いだ歌で、1974年の強制連行調査でこの歌の存在が確かめられた。(原唱者は安龍漢(アン・リョンハン)さん(故人))

歌の途中に「監督者の怒鳴り声」が3回入りますが、この「監督者」は日本人ではなくて、皇民化政策で「日本人」にさせられた朝鮮人なのです。この、弱い立場にある朝鮮人が、更に弱い立場にある強制連行された炭鉱夫を「日本語」で虐げるといふ、典型的な「差別」の構造が浮かび上がります。

[4] 「花はどこへ行った」

<https://youtu.be/eJOjSMdLGQ>

「阪大ニグロ」の原点とも申すべき『花はどこへ行った』です。1976年12月の演奏です。この曲は一般には「ピート・シーガー作」とされていますが、その一部をジョー・ヒッカーソンが補作したというのが定説のようです。

歌詞は、「野辺の花」→「娘」→「若者」→「戦争」→「兵士」→「墓」→「野辺の花」という循環系を成しており、巷には色々な訳詞がありますが、出来るだけ原詩に忠実に訳しました。／いつになったら わかるのだろう／…。

[5] 「最高にかす女のブルース」

<https://youtu.be/ptLhy1pELzs>

「阪大ニグロ」の1969年12月の演奏で、曲名は、別名〈New Orleans Blues〉。鎖に繋がれて、重いハンマーや

ツルハシを振るう黒人囚人の労働歌(いわゆる、chain gang song)であり、愉快で楽しかったかつての娑婆の暮らしを想えば想うほど、鎖が足に食い込みます。

[6] 「ぼくらは ゆるがない」

<https://youtu.be/liZDgJjTuV8>

「日高(和歌山県)反原発闘争」の真っ只中の1980年代の初頭に、NNSが歌った「ぼくらはゆるがない」です。

原曲は、アメリカ民謡(黒人霊歌?)の『We Shall Not Be Moved (我ら揺るがず)』ですが、この曲は歌詞が4行という非常にシンプルなもの、1,2,4行目が同じ歌詞なので、3行目に、例えば/The union is behind us/とか/Black and white together/などの歌詞を挿入すれば、あらゆる社会運動の様々な場面で、容易にsing-out(皆で一緒に歌う)することが出来ます。多くの集会やデモの中で愛唱されました。今もって紀伊半島には1基の原発も有りませんが、この歌がそのことに些かでも貢献できたのでは?との密やかな自負を持っています。

[7] 「ディーブ・フォーク河のブルース」

<https://youtu.be/HZnP6t8VyXY>

「阪大ニグロ」が1969年12月に歌った『ディーブ・フォーク河のブルース(Deep Fork River Blues)』(作:トム・パクストン／日本語詞:阪大ニグロ)です。詞は極めてシンプルなものですが、それが却って、故郷の「泥水のディーブ・フォーク(fork/分岐する)河」へのただならぬ望郷の念となって押し寄せてきます。恐らくは、故郷を離れて都会へ働きに出た若者を待ち受けていたものは、劣悪で不当な労働環境と孤独感であったのでありましょう。沈み行く夕陽を眺めながら、一日も早く、あのディーブ・フォーク河の我が家へ帰りたい…。

[8] 「ふるさと遠く離れて」(通称:900マイル)

https://youtu.be/TMTsZJ_IH48

「ホーボーの歌」のひとつです。「ホーボー」とは、仕事を探しながら列車に乗って(大抵は貨物列車の無賃乗車)町から町へ転々と旅する、主として日雇い労働者や季節労働者のことで、20世紀初頭の不況の時代に生まれました。列車が速度を上げる前に飛び乗らねばなりませんので常に危険を伴うことから、幾多の死者も出ましたし、また、無賃乗車を厳しく取り締まる車掌や保安官などによる激しい暴行も覚悟せねばなりませんでした。

[9] 「いのちあれば、また」

<https://youtu.be/8CwfGe9VuiA>

日高(和歌山県)反原発闘争の真っ只中の1980年12月に「阪大ニグロ」が歌った『いのちあれば また』です。この曲は、[2]の『俺は のむ』の姉妹曲とも申すべき曲で、同曲と同様、詩人の小島 力さんの詩『原発下請労働者』(1980年作)にヒントを得て、「使い捨てる雑巾」として1日に数千人が投入される「原発下請け労働者」どうしのやり場のない不安や怖れ、そして、かけがいのない友情を歌っています。

／いのちあれば また お前と飲もう／…。その切々たる心情は、演奏に先だって朗読される小島さんの原詩の1節/俺の全身に放射能が充満し 肉や骨を腐らせてゆく予感を飲む/に象徴的に表されています。

AI 特集⑥ 医療に持ち込まれ始めたロボットとAI技術

AI化の進展は医療をどのように変えていくか

(2017年9月17日の朝日新聞「科学の扉」の要約)
AIの進歩で医療における人間の役割が変わりつつある。

- ① AIによるゲノム解析によるガンの診断により、ガンを確定し、有効な治療が選択できる。
- ② 画像診断の分野でAIは医師診断能力を上回る
- ③ 手術分野でも、内視鏡手術支援ロボットによる手術は、患者の負担も少なく、精密な動きが可能。

政府はAIやビッグデータ技術を活用した「AIホスピタルシステム」の構築を目指して、22年度末までに10の医療機関で運用を開始する予定である。日本医療研究開発機構や東京女子医大は「スマート治療室」を開発しており、最新型では、AIによる治療法の提案やロボット手術台を備える予定である。「最終的な目標は、AIが診断してロボットが手術する。医師はAIの判断を確認してボタンを押すだけ」と東京女子医大の村垣教授は語る。

医療をAIやロボットに任せて大丈夫か？研究者の一人は「今の医師ならAIが変な判断をしても、経験から気付くことが出来る。しかし『AIネイティブ』な未来の医師は気付かないのでは」と心配する。さらに、医師がAIの判断に疑問を持って、AIがなぜその結論を出したのかが説明できない可能性がある。深層学習(ディープラーニング)は大量のデータを機械学習したもので、その思考過程や判断根拠は分からない。

(現在) あくまで医師が判断・決定し治療
(AIや機器は医師を支援する役割)

(来るかもしれない未来) AIや手術ロボットが判断し治療
(医師はAIや機器が導き出した判断を確認し、決定する役割となる)

(さらにこんな未来も) AIや手術ロボットの技術が人間を圧倒的に上回り、検査から診断、処置まですべて全自動で行われるように

検査と診断のAI化

今年の5月8日の「グーグルI/O」では、医療へのAIの利用が強調された。AR(拡張現実)顕微鏡は、顕微鏡画像をAIが処理して癌細胞の位置を線に囲んで表示する。誰でも癌細胞を見分けることが可能となる。展示されたのは「乳がん」検査であるが、画像データを他の病気に取り替えることで、肺がんにも結核やマラリアなどの診断にも応用できるという。



昨年開発された「糖尿病網膜症診断装置」をさらに発展させ、心血管系疾患の診断も可能としようとしている。「大量のデータがあればAIは心臓発作のリスクを予測できる。これが機械学習の素晴らしい力だ」と強調した。

「遠隔医療」=ネット医療の拡大

中国では、「ネット診療」が急激に拡大している。保険会社から分離した「平安健康医療科技」の「平安グッドドクター」はスマホで診断、入院予約、医薬品の購入が出来る。約1千人の内勤勤務医が遠隔でAIの助言で診断する。同社には日本のソフトバンクも出資しており、1日に40万近い診断を行い、約2億人の利用者を持つという。

一方で医療目的で日本を訪れる中国人やアジアの人々は急激に増加している。政府は2017年に全国28病院(東大・阪大・慶応・慈恵など)を「特に適した医療機関」として推奨し、高度先進医療を提供する「医療ツーリズム」を展開している。

日本では1997年に「遠隔診療」が認められ、2015年に厚労省は「離島・僻地」という制約をはずした。現在は高血圧、尿酸値、コレステロールなど10カテゴリーに制限されているが、触診・聴診に代わるIT装置の開発などを検討してその拡大も検討されている。2015年以降、多くのベンチャー企業が「遠隔診療」に参入している。

10/28 核のゴミ捨て場「中間貯蔵」はいらぬ関西集会

主催：避難計画を案ずる関西連絡会

関電は昨年11月に福井県知事の要請に応じて、今年(2018年)中に、福井県外で中間貯蔵の候補地を決定し公表すると約束した。候補地の1つとされていた白浜は、日置川をはじめ各地区に反対組織がつくられた。

28日には和歌山と福井の皆さんを招いて関西集会が開かれる。ぜひ参加してください。

10・28 核のゴミ捨て場「中間貯蔵」はいらぬ関西集会
主催：避難計画を案ずる関西連絡会
日時：10月28日(日) 午後1時半～4時半 (開場：午後1時10分)
場所：ドーンセンター5階 大会議室2 (集まる5F)
参加費：一般500円、大学生以下・避難者200円
清水善久さん(核のゴミはいらん日産の会事務局 代表) / 東山幸弘さん(ふるさとを守る専長・核のゴミの会)

小児甲状腺がんについて UNSCEAR 2016年白書が言及しないこと

安倍政権と福島県が、福島原発事故での放射線汚染を過小評価し、現実に発生している小児甲状腺がんを軽視することを、「理論的」に裏つけているのが「UNSCEAR」(原子放射線の影響に関する国連科学委員会)の「2016年白書」である。この白書は日本学術会議や福島県の県民健康調査検討委に大きな影響をあたえている。

この報告が、疫学的にも統計的にも全く非科学的な「結論ありき」の産物であることを、山内知也さん(神戸大学)が、岩波書店の雑誌「科学」9月号に発表された。

